

報告：ミシガン大学にて

Life at the University of Michigan

川嶋 幸江*

Yukie Kawashima

1. はじめに

ミシガン州は米国の北東部にあり、五大湖の内の四大湖にその周りを囲まれ、左手のミトンの手袋の様な形をした州です。ミシガンというのはインディアンの言葉で「大きい湖」という意味です。

地形的には山は見当たらず、四方、全くの平地帯で、そこにはいたるところに、大小とりまぜて数えきれないほど沢山の湖や沼が点在しています。流れる河の勾配も約1/1000といったゆるやかな流れで、よく見ないと流れているのかいないのか、湖の様な河がほとんどです。裏庭にカヌーやモーターボートを置いた家が多く、休日には車の後につないで、水辺に出かける光景をよく目にします。6月の夕暮には蛍が飛びかい、動くイルミネーションの世界が出現し、さながら星空を浮遊している感じで、それは見事です。同時に蚊も多く、ミシガン州は別名、モスキートウ州という夢のない愛称でも呼ばれています。鳥や小動物が多く、リスは人間と共存しています。

ミシガン大学のあるアナーバー市は、自動車の都として有名なデトロイト市の西方約60kmで、シカゴに通じる94号線沿いにあり、緑に囲まれた大学都市です。

* 住居学専攻

アナーバーという名の由来は1800年頃、この地を開拓した農夫の奥さんアン(Ann)の名前をとってAnnの住むArbor(あずまや)とつけたのが始まりです。

2. ミシガン大学について

ミシガン大学は1816年に創立され、今年で創立170年をむかえ、質、規模の点からも全米でトップテンに入る大きさです。アメリカ人の大好きなスポーツ、アメリカンフットボールでも、全米選手権に常に出場するほどで、その面からも名前を知られています。大学は中央キャンパス、ノースキャンパス、メディカルセンター、スポーツキャンパスの4つに分かれています。敷地の総面積は1,000万m²(約330万坪)です。その中に幾つもの建物が実にゆったりと配置されて建っています。学生数は約36,000人(学部学生24,000人、大学院生12,000人)、内、女性47%、教職員3,000人、図書館の蔵書数600万冊、レコード数35,000枚といわれ、利用者が使いやすいように、キャンパス各地、20カ所にもわけられ、中央図書館によりコントロールされています。

蛇足ながら、太平洋戦争以前から、日本を知るために東洋図書館が作られ、その充実ぶりに

脱帽しました。その中に、私の実家の父の著作の一部を発見したことで、その感慨はより深いものとなりました。

このキャンパス内を朝7時から夜中の1時まで無料の大学バスが走り、台数も多いので、ほとんど待つ事もなく、キャンパスからキャンパスへ、寮からキャンパスへと何時でもどこへでも自由に移動出来ます。特に夜遅くまで運行されているため、帰りの足を心配することなく、学校の実習室で、ゆっくりと製作にはげむことができます。夜遅く、森の中でも歩かないかぎり、治安も安全です。

学部の数は美術学部、建築学部をはじめ、医学部、歯学部、工学部、文学部、法律学部など、農獣医学部を除くほとんどすべての学部、16学部が設置されています。

3. 学生寮とハウジングセンター

大学には19の女子寮と36の男子寮があります。大学生になるとほとんどの学生が親元を離れ、寮に入ります。自宅通学は大変少なく、車通学も禁止されています。そのため、寮だけではたりず、学校近くの住宅のほとんどが学生用の借家になっています。一戸建ての家の寝室の数分だけ学生を入れ、居間や台所などは共同で使います。結婚している大学院生はノースキャ

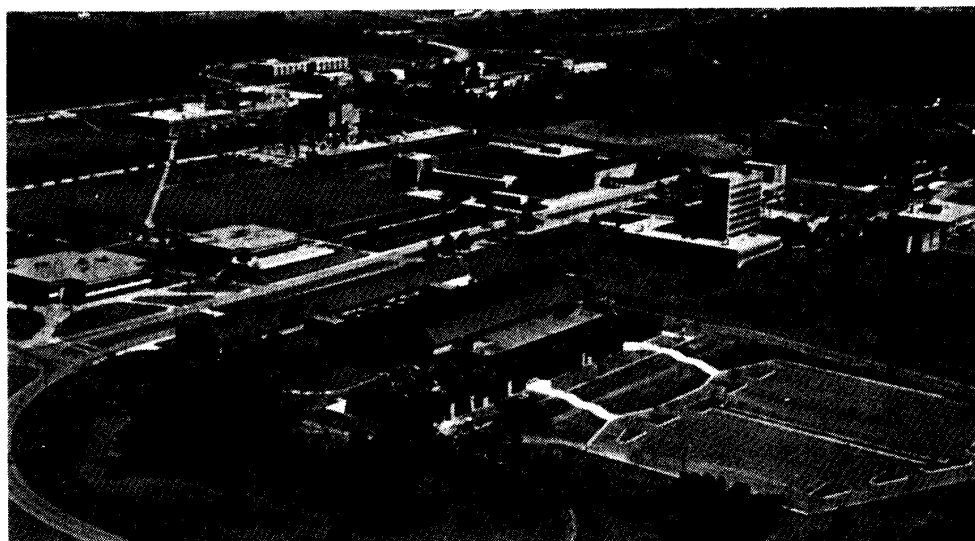
ンパスの中にある、留学生や外国からの研究者用のテラスハウスやアパートにまじって入居しています。1寝室～3寝室までの広さがあり、家族数に合わせて、ハウジングセンターが割当ててくれます。

ハウジングセンターは学校が持っている寮やアパートの斡旋と、外国から来ている家族にむけて、語学教育やサークル活動などの催しを企画運営したりしています。

4. 授業

授業は9月から12月までの秋学期、1月から5月までの冬学期、春夏学期と呼ばれる半期の変則3学期制で、主要な科目の大半は秋か冬学期に開講されています。

米国の大学の学期は2学期制のところと3学期制のところがあり、かなり自由な考え方で行なわれています。それは、単位に対する考え方が、しっかり確立されていて、学年という概念が全く薄くなっているからです。従って学生は、とれる時に必要な単位を少しずつとって卒業することも可能ですし、お金があり、かつ強い意志があれば短期間に沢山の科目を受講して、3年もかからずに卒業することもできます。また、働きながらお金を稼いで、少したまったら1学期受講し、また次の学期は働い



大学・ノースキャンパス全景。手前が美術学科と建築学科

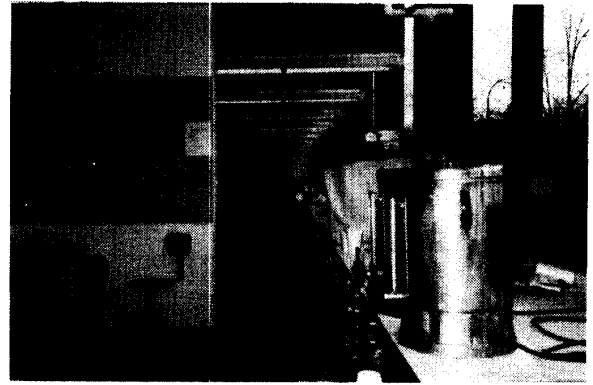
て、お金を稼ぐといったこともできます。学年制ではないので、単位の内容だけが問題です。現に私の友だちは5年かかって卒業したにもかかわらず、優等賞をもらいました。学生の年齢はまちまちで、古いも若きもはりきって勉強しています。

5. 授業料

授業料はそれぞれの大学で異なりますが、同じミシガン州の州立大学の間でも違います。ミシガン大学 (The University of Michigan) も州立大学です。他に、ミシガン州立大学、西ミシガン州立大学、東ミシガン大学があります。それぞれの大学には自由に運用できる大学の資産が豊富にあり、それを投資にまわし、相当の利益を稼いでいるようです。このミシガン大学の授業料は米国国民である居住者扱いと非居住者扱いがあり、その比は約3倍以上あります。米国は所得税も高い割に、所得税をおさめている人は非納税者より、この点で優遇されています。非居住者扱いで計算すると、美術学部の場合4,024\$です。少しずつ科目をとっていく場合は最初の1単位が394\$で、次の単位から1単位当たり、330\$になります。もし、1学期8単位とると、 $394 + (330 \times 7) = 2,704\$$ になります。1学期12単位以上とれば、全科目履修で申告した方が、得になります。

6. 聴講生制度

正規の学生以外に聴講生制度もあります。科目担当の先生の承認があれば自由に聴講でき、費用は1科目当たり100\$で、何の義務もないかわりに、単位も資格ももらえません。しかし、図書館をはじめとする大学の施設を自由に使えます。他に、特別聴講生制度というものもあり、これは、入学審査があり、学部長の承認を得て、大学に申請して、聴講許可をもらいます。この場合の授業料は普通の学生と同じですが、単位ももらえ取得証明も出してもらえません。



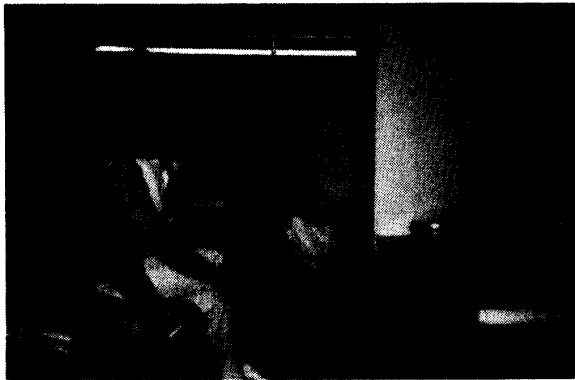
各教室はつながっている。右側は図面庫

7. 美術学部 (School of Art)

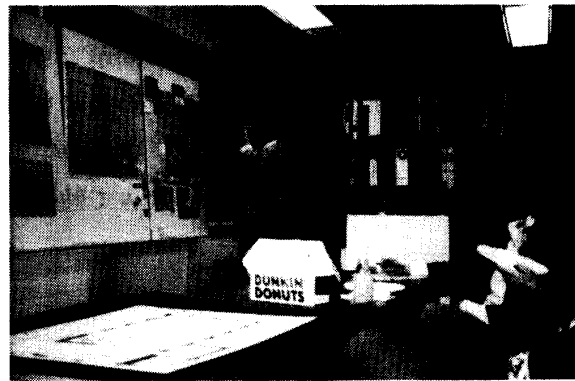
美術学部はノースキャンパス内にあり、建物は建築学部と同じ棟にあります。

他の学部は色々な学科より構成されています。建築学部は建築学科と都市計画学科の2学科で構成されています。美術学部は大学院は別にして、学科に分かれていません。美術学部は所属の先生が、それぞれアトリエや工房を持ち、そこで製作や実習をします。考えてみれば美術の場合、他の学部ほど科目の境界は明確でないので、このゆるい構成でよいのかも知れません。学部の学生は油絵のアトリエに入ったり、陶芸の工房に入ったりして、自分の勉強したいものをじっくり検討できます。その他に、座学のための教室は別にあります。それらの教室は教室の後方で、隣室とつながり、どの教室にいつでも自由に入出入りできます。しかもそこには個人に割りあてられた図面庫が7つの教室の端から端までつながって置いてあります。授業中でも、学生は自分の図面庫の中の紙などを取り出すために入ってきます。もう一方の外部から通じている、廊下から教室への入口にも扉がありません。全く、プライバシーのない教室ですが、大きな声をたてる学生はいませんから、このようにオープンな教室でも問題がないようです。

授業は大変自由な空気の中で行なわれます。コーラの紙コップを持ち、ドーナツを食べながら講義を聞いている学生。ほお杖をついている



プレゼンテーション (86年9月)



プレゼンテーション (87年2月)

学生. 机の上ののってあぐらをかいている学生. 先生の方も講義や実習で食事をする時間のない時などは, 売店からサンドイッチを買ってきてはおぼりながら, コーヒー片手, チョーク片手といった授業をします. これは, 昼休みの時間を特別にとらない時間割で, 11時半から2時半までの実習授業があるからです. こんな自由な雰囲気の中でも, 私語や無駄口をする学生は全くいません. たまに何か私語をする者がいると, たちまち周りからシーシーといわれ, 学生同士で規制されます. 他人に迷惑をかけることが徹底しています.

8. 専門科目

用意されている講義科目は 1~2 年次用, 約 35, 3~4 年次用に約 75, 全部で約 100 科目位です. もちろん, これをとらなければこれはとれないといった履修制限はあります. クラスの構成人数は約 20 人位です. 1人1人その科目の先生に相談しながら履修するかどうかを決定します. 最終履修申告は授業開始の2週間後ですから, 3~6 度授業を聞いて, 最終的に決定します. 授業は座学の場合, 1 講義時間 60 分で週 3 回, 1 学期 12 週で 3 単位です. 演習科目は 1 講義時間 180 分, 週 2 日, 1 学期 12 週で 3 単位です.

アトリエや工房の数は彫刻, 陶芸, 写真, 版画, 油絵, グラフィック, インテリアデザイン, 彫金, 織物, 工業デザインの 10 室ありま

す. どの部屋も十分広く, 先生自身の作品も, ほとんどここで製作されることが多いため, 学生にとっても, 先生の作品の進行や手技を直接見ることができ, 教育効果を高めています. 授業では質疑応答が活発です. どの科目も実に沢山の宿題が出, この宿題をこなさなければ次の課題へ進ませてもらえません. 学生は必死で課題を消化しています. 演習, 実技の科目でも, 宿題は非常に多く, 本の指定された部分を読みこなさなければ, 細かい指示を判断することができません. 実技といえども, 文献調査は大事な仕事になります. これらの文献調査や一寸した事を調べる目的のため, 施設内に図書館がないと困るわけです.

9. インテリアデザインクラス

インテリアのアトリエは 2 人の先生で受けもたれています. インテリアの授業は I II III IV V まであります. 86 年度秋の学期は I と III と V が開かれ, I は①住宅の改造計画と設計, ②既存レストランとファーストフード店のインテリア調査 (客の動き, 環境, 家具配置, 色彩などの比較), ③家具メーカーのショールームのインテリア設計, III はシカゴに建つあるビルのワンフロアを「デザインファームにするための計画と設計」, V はアナーバーに建っている地下 1 F, 地上 3 F の「デパートメントストアの改装計画および設計」, — をします. 冬の学期は II と IV とが開講されます. II は I の②で行

なった調査を元に「レストランの設計」と「アパートメントハウスのインテリア設計」、Ⅳはアナーバーに建っている「古い教会の外側はそのまま残して内部を変えて銀行にする計画と設計」をします。

課題が出されると、まず課題に関係ある場所へ、先生と一緒に見学に行きます。例えば、「デザインファームのインテリア」が課題の時は市内のデザイン事務所へ、授業時間内に見学に行き、実際の事務所が活動している様子を学生自身の眼でつぶさに確認させます。ことに日本と異なるな、と思ったのは、インテリアⅢのクラスで、設計をする前に2~3名の学生のプロジェクトチームを作り、学期の半分をかけて、そのデザインのためのコンセプトをしっかりとこしらえ、5~10枚のレポートにまとめ、きちんと製本した計画書を提出します。この間、各チームは2~3回のプレゼンテーションをします。この時、先生からはもちろんのこと、学生同士からも色々な質問や、「ここはおかしい、こうしたら」といった具体的な提案があったり、手きびしい批判をされたりといったやりとりが激しく行なわれます。そのたびに、次のプレゼンテーションのために修正したり、書きなおしたりしなければなりません。このプレゼンテーション用の資料や提出図面のために使う色の素材見本、例えば、カーペット、壁用の材料、カーテンなどの実物が準備室に整理されて置かれていて、学生は自由にこの素材見本を自



資料・見本室にて（86年12月）

分の作品に張りつけます。その上、実に豊富なカタログが用意されています。家具や設備器械などの選択にも、調査をするのにも、全く、不自由ありません。学生が使う製図室は24時間開放されているので、都合の良い時にきて製作にはげむことができます。この様にプレゼンテーションがうまく行なえる様なサポートがなされています。この表現力は実に多彩で、極めて実践的な感じがしました。この種のプレゼンテーションは美術学部ばかりでなく、色々な学部でもひんぱんに行なわれます。そのため、計画書などを製本する需要も多く、それを作る店も数多くあり、便利です。普段からこのような表現を訓練するのは競争の激しい米国で仕事をしていくために必要なことなのです。

10. インテリアデザインの採点方法

課題を期限に提出すると、その作品に対しての採点が、タイプされた用紙に細かく項目別に記載されて、次の週にもどってきます。例えば、「デザインファーム」のインテリアの計画書作成の評価は、①Research (15%) ②Design Objectives Statement (10%) ③Program data (50%) ④Presentation (25%) —の合計 (100%) で、評価されます。その上、さらに細かい注意事項が書かれています。

設計に対する評価は、課題によって内容が多少違いますが、一例として、Program Analysis (9%) ②Space Planning (25%) ③Design Development (36%) ④Lighting (6%) ⑤Graphics (24%) —の合計 (100%) になっていて、②~⑤までの中はさらに細かく留意点をわけて評価するようになっています。そのため、各自、どこがデザインする上でよくなかったか、理解できる仕組みになっています。表現方法が多少へたでも、アイディアが面白いとその面で点数が上がったりします。この採点方法は教師にかなりの時間、負担をしいるものかと思えます。しかし、20人という少ない人数のクラスだからこそ、1人1人の学生をよく知るこ

とで可能になるのかもしれませんが。

11. インテリアデザインの学生たち

インテリアコースではこのクラスをとっている学生たち自身で、勉強会や見学会を自主的に計画したり、建築科の授業を受けたり、大変意欲的に勉強に取りこんでいます。

アメリカには IBD [the Institute of Business Designers] という組織があり、その主催で、未来の会員になる学生も参加させ、米東部の支部総会をミシガン州のグランドラピズで開催しました。ここはミシガン州の市の中でデトロイトにつぐ大都市です。この会にはアイオワ、ケンタッキー、イリノイ、オハイオなどの各州からもバスを仕立てて、大勢の学生が参加しました。グランドラピズは米国の家具の発祥地で、近郊にはハーマンミラー、ウェスティングハウス、ヘイハーズ、スチールケース社などの現代の米国の家具の有力メーカーの工場が集中しています。これらの会社の学生見学会の受入れも、親切で、とても充実したものでした。

日本と異なって非常にうらやましく思った事は、学期始めに、学生が先生の自宅に招待されることです。ほとんどの教授の家は学校から車で10～15分位の所にあります。大学教授の家の建っている敷地は小さくても1000～1200m²、住宅は200m²以上もあり、20人前後の学生が集まってもびくともしません。パーティの形式はポトラックパーティが主で、先生は軽い飲み物やおつまみを用意し、学生1人1人が適当に何かを持参します。中には手ぶらの者もいたり、様々ですが、教室では得られない、色々なコミュニケーションがなされ、友人をつくるチャンスです。我が身をふりかえると、夫婦2人でぎりぎりのスペース、共栄短大へ往復5時間かかるという場所に住んでいるので、学生ばかりでなく、どなたもお招きできません。この悲しい現実を前にして、米国と日本の住宅事情の違いを改めて考えさせられてしまいました。

12. 夏期セミナー

夏期休暇中には多くの特別講義が開講され、著名な先生が、全米ばかりでなく世界各国からやってきて、色々面白い企画が行なわれます。これは学生だけでなく、社会人にも広く開放され、単位もとれるようになっていきます。この特別講義の多さは驚くほどです。美術学部は少ない方ですが、15講座開かれました。多い学部などは45講座も行なわれました。授業料はその期間、内容によっても違いますが、大体1000\$～2000\$位です。

美術学部は Art & Design Summer Workshops と名づけた夏期セミナーが開かれました。7月2日～8月20日まで15種類のショップが順々に、朝8時から夕方5時まで、2週間単位で続けられます。昨夏は版画の部門では当時、京都工芸繊維大学の黒崎教授が招かれて教えにこられました。ファイバー部門ではカリフォルニアのバークレーからバスケットタリーの



サマーワークショップ。作品発表（86年7月）



サマーワークショップ。作品講評会（86年8月）



サマーワークショップ，外での授業（86年8月）

エリオット先生が招かれました。私もこれらのセミナーに参加しました。

これらの招待された先生の作品展やスライドを使った特別講義が授業とは別に夜、開催されます。作品展をする広いホールが校舎の中にあり、たえず先生の作品展や学生の作品展、特別企画展などが開かれています。学生の作品展に出展した作品は採点され、優秀作品には500\$~50\$までの賞金がつけられ、学生はますますはりきって作品を作るといふ非常に現実的な路線がとられています。学生たちは様々な作品展を身近に観賞しながら、見る目をこやす、教育効果バツグンです。校舎内の廊下も広く、日本に比べて2~3倍はあり、一部吹き抜けになっているので、この壁面は学生の大きな絵が飾られるなど、日常的に製作した学生の作品が発表される場所にもなっています。

13. 技術教育の問題点

米国の学生は授業には非常に熱心に出席しますが、一般的に実験のような体を使ったり、汚れたりするものを嫌うようです。特に工学部では機械製図は時間ばかりかかるのに、単位数が少ないため、単位をとる効率が悪いというわけで、人気がありません。製図を教える先生も製図では論文が書けないので、段々人が居なくなり、製図の時間もなくなってしまう傾向にあります。そのかわり、CADが大きく取り入れられています。しかし、製図を習った後にCAD

をやるのならまだしも、いきなりCADでキーボードだけから入力するため、物体のイメージを頭の中に浮かべにくく、簡単な応用にも対応できなくなり、技術者として欠陥ありといわれています。一部の大学の工学部ではこれに気づいて、昔ながらのドラフターを残して製図教育をしています。すでにCADに切り替えてしまった大学で、急ぎょ製図を課目に入れようとしたら製図の先生が見つからず、開講できないといった笑えない話も聞きました。実験も同じく人気がなく、日本の工学部などでよく見られる、白衣や作業服を着て実験に汗を流している風景はほとんど見られません。エアコンの効いた室内でキーボードをたたいてばかりいては、実物のイメージも実際の組立の手順も学べません。理論や開発には強くても、実際に物をつくると「だめ」という、今日の米国工業の欠点の原点をみるような気がしました。これに反し、イメージやインスピレーションを大事にする美術学部や建築学部では製図はまだ健在で、膨大な製図の宿題や製作のために、手を使っています。しかし、ここにもCADの導入が積極的になされ、そのうちこの分野でも全盛になるのではないかと心配です。やはり、人の心にうったえ、ふれあえる建築物は、人間が考え、人間の手で書きおこされた図面から作られるものではないかと思うのです。

14. 建築や美術・工芸に対する考え方

現在、米国の人たちは心のやすらぎを芸術作品に求めていると思われます。季節が暖かくなると、ホームツアー（現在使われている住宅の見学会で、チャリティー券を15\$で買って、1日7~8軒を見学してまわります）が催されたり、アートフェアとか、カントリーフォークアートとか、アンティークフェアなどが、大々的なものから小規模なものまでひんぱんに、あちらこちらで開催されています。古い家具調度、古い工芸品、日常的な道具など、日本人の目から見るとガラクタでも、大切に保存したり、使って

います。特に古い住宅を、多少不便でも手入れしながら大切に、誇らしげに住んでいる人たちがとても多いのです。日本では歴史がありすぎるせいか、多少古い位の住宅では価値がないと思うのか、あっさりこわしてしまう人が多すぎます。

とにかく、一般の人たちが建築やアートに対して、普段から深い関心と理解を持っています。それは、通りがかりに興味をもった建築物などがあった時、受付けで「私は建築家だが、見学してもらえないか」と頼むと、気軽に見せてくれることがあることから分かります。

15. おわりに

学期最後の授業が終ると、かならず学生全員に配られる学生から先生への評価のアンケート。教員の査定の対象にされるとか、されないとか。

学生が集まらなくなると、採算がとれないからと学科を中止してしまう速断（2年前に地理学科が、私たちが滞在中に言語学科が廃止されました）。後先の影響がどうなるのか、その検討はもちろんしているのでしょう。その速断すぎるほどの速断。驚かされるばかりです。しかし、この速断即決が失敗したとわかると、すぐ修正する率直さ。ここに、米国のふところの深さと大らかさを強く感じました。